

連珠っておもしろい

九段 河村典彦

● 第93回 ●

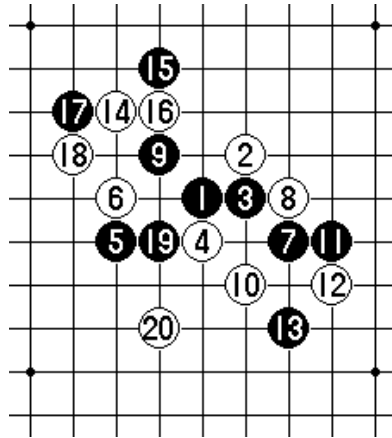
■ 名人戦A級リーグ反省

いや、今年のA級リーグはよく負けた。正直な感想である。まったく手が見えなかったというのが現場での感覚で、こんなに衰えたのか？というのが自分自身びっくりしている。昔できていた運動が、頭ではできていても実際にできないのと同じような感覚である。自分の局は連珠世界で振り返るので、今回は他人の棋譜を中心に、注目のものを見ていこう。

まず注目するのはやはり中村前名人である。今回のA級はまったく危なげがなく、全勝優勝は当然の結果という感じであった。四珠交替打ちが有利に働いていると言えよう。もともと実力がある上に、研究のしが

いのあるルールに変わったことが追い風になっているのだろう。まずは初日の3回戦で当たった、神谷戦を見てみよう。

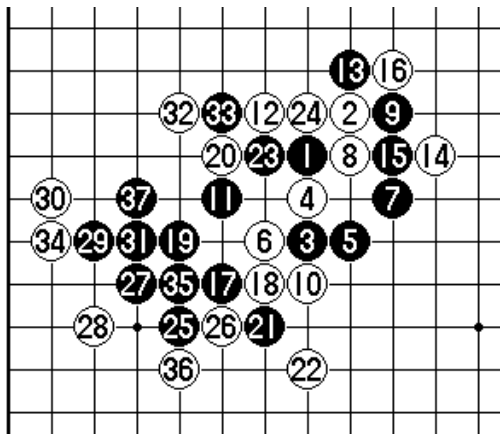
黒…神谷 白…中村



神谷君が雲月を指定、中村氏が白4と五題を指定した、という流れである。黒5は五題目としてはまあ妥当だろうが、白6と打たれてみると早くも桂馬の網にかかっているように見える。白6では8も成立したが、相手の読みを外すことでは定評のある中村氏らしい選択だった。さて、黒7から何か攻め

なくてはいけないが、黒5と白6の交換は、明らかに白に有利となっている。白10など余裕の防ぎもあり、明らかに白のペースだ。白20までを示したが、結局程なく白勝ちとなった。若手の代表の神谷君を下し、もう一人のシード選手、岡部君との一局が注目されたが、これも見てみよう。

黒…中村 白…岡部



今度は仮先の中村氏が明星を指定←岡部君交替←続けて白4と七題を指定←岡

部君交替で中村氏の黒が決まった。四珠交替ですべて相手に打たせるのは感覚としては気合負けである。私の第一局の神谷戦でもそうであったが、自分に作戦がなく、相手の様子を見て決めようとすると、結局わからなくなってしまうパターンにはまってしまっている。

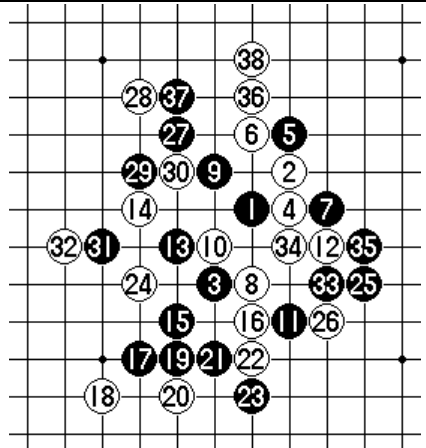
それにしても白4の作戦は寒星共通ではあるが、さすがの懐の深さだ。対して黒5なら黒があまり悪くならないと思えず、まずは黒のペースだろう。局後検討を聞いていると、中村氏は掲示板連珠で経験があるらしく、たいいていの変化にはついていけないのだろう。白10は攻撃的な防ぎなのだが、黒11と17の両方を叩くことができれば問題ない。黒19が好点で、左辺が広いのでほぼ勝ちだ。私は黒25を考慮中の場面から見だしたのだが、黒25は苦勞して見

つけた感じであった。どうもこの手が決め手であったように、以下追い詰めとなった。最後は四三々をどうやって解禁するかだったが、見た目に美しい形で仕上げた。

今回の見どころは他にもあり、異色の棋士ということで、小山君の棋譜を紹介したい。彼は好不調の波が激しく、松浦戦では明らかに勝ちがある局面から引き詰まり、負けたかと思うと、岡部戦や私の局では思い切り力を発揮して勝利を収めている。見ている側には面白いと思う。では、その岡部戦を見てみよう。

岡部君の名月指定から始まったが、白4に対し、黒5はここが三題目なのだろうか？世界ではいろんな手が流行っているものだ。白6、黒7はこんなものだろうが、白8には面食らっただろう。普通研究ではあまり考えない形である。

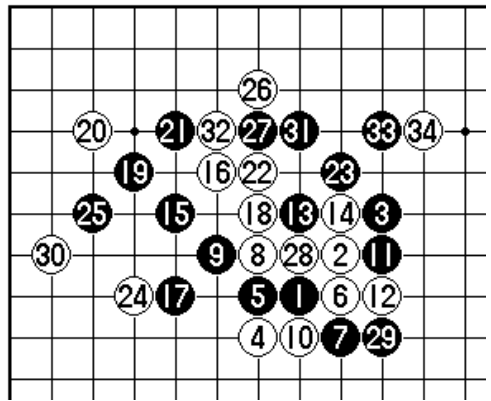
黒…岡部 白…小山



黒9から黒は必死の攻めで、何とか形を作ったが、白22に黒23と打つ形は、浦月定石の失敗図のような感じで、盤端にも近くこれでは勝てない。反撃に転じた白36が含み手になっていては万事休すだ。

最後にご紹介するのは、その小山戦にしたい。長星を指定されたので、白4を打って八題を提示したら、間髪入れずに黒を持って八題を打ってきた。「あら、研究済みなのね」と思ったが、こちら飯尾さんとは

黒…小山 白…河村



よく打ってきた。しかし、馴染みのない八題だったため、かなり迷った。このあたりはもう実戦カンが全く冴えておらず、自信を失っていた。問題は黒9の場面で、普通ならその一路下で打っておいて受け切れると思うのだが、その時の精神状態では何でも黒勝ちに見えるえてしまう。そのため白10からがちがちの手を選んでしまし、結果的に小山君の力を最大限引き出してしま

った。それでも一手一手防いでいけばいつかチャンスは来ると思っていたのだが、白18が致命的に悪かった。黒にここを引かれても、上止めが先手になるため、黒としても三は引きづらい。

黒19から21と打たれ、状況がかなり悪いことによく気が付き、長考することとなった。そこでようやく白22、24をひねり出し、部分的には止まったようだ。しかし、今度は黒33に展開されてこれはもう止まらない。黒35から四追いであるが、四追いがあるとは気づかなかった。

結局、中村前名人が全勝で優勝した。実力的には頭一つどころかに二つ以上抜けており、まったく付け入るスキがなかったというのが実感である。昔より強くなっているのでは？とも思っていた。今年の決定戦が実に楽しみである。